

# 市民が受け継いできた 祭のにぎわい「むさしのばやし」



山寄義勝さん  
昭和10年生まれ。11歳からお囃子を習い始める。  
むさしのばやし保存会第2代会長。

## 武蔵野 History

武蔵野にまつわる歴史を  
楽しみながら学ぶ

武蔵野八幡宮のお祭りなどで、にぎやかな雰囲気盛り上げる「むさしのばやし」。江戸末期に吉祥寺に伝わったこのお囃子は、時代を越えて受けて今年で40周年。そして来年には生誕150周年を迎えます。むさしのばやし保存会の山寄義勝さんに、その歴史についてお話を伺いました。

むさしのばやしは、いつ頃に誕生したのでしょうか？

現在の武蔵野市が開けたのは、江戸初期に起きた明暦の大火（1657年）の後といわれています。大火災によって江戸の中心部から人々が移り住み、吉祥寺村や西窪村が開村したのです。当時、このあたりは農村でした。娯楽がない時代でしたから、人々は府中の大國魂神社の祭りまで足を伸ばしていたようです。次第に地元の祭りも盛んになり、武蔵野八幡宮の祭りをにぎやかにしようと生まれたのが、今でいう「むさしのばやし」です。江戸時代の末期、文久2（1862）年と伝えられています。当時は「吉祥寺囃子」と呼ばれ、グループは「吉祥寺囃子連中」を名乗っていました。

江戸時代から現在までお囃子は変わってきたのでしょうか？

江戸のお囃子は、現在の葛飾区金町

にある香取大明神（現在の葛西神社）で生まれたそうです。ここから、お囃子が西へ西へと伝わってきた。神田、目黒、深川などのお囃子もみな葛西神社が源流です。

地域によってお囃子は違います。これは、伝わっていく過程で演奏者の癖によつて変化してきたものです。吉祥寺囃子連中は最初、阿佐ヶ谷の田淵流の師匠に学びました。明治の中頃になると、現在の世田谷区千歳船橋に船橋流を広めた内海軍次郎という師匠に習いました。軍次郎のお囃子は、調子が早く、威勢がよかつたといわれています。現在のむさしのばやしはテンポがよいのも、この師匠に学んだからでしょうね。私たちの世代でお世話になった名人といえば、西林源六さんです。当時の田無市（現西東京市）にいた笛の名人です。大正の頃、吉祥寺のお囃子の演奏が当初と変わってしまったときに、手ほどきを受けたそうです。私自身も



## むさしの今昔物語 ～むさしのばやしの巻～

祭をにぎわせる「むさしのばやし」は、昔も、今も、地域を愛する人々の手によって受け継がれています

昔



昭和3年、武蔵野八幡宮に集まった「吉祥寺囃子連中」。そろいの浴衣に身を包んでいる。祭りが始まると、「はやし屋台」に乗って、御神輿とともに街を練り歩き、途切れなく演奏を続けた。吉祥寺の子どもたちにとって、八幡宮のはやし屋台は憧れのひのき舞台だった。

今



むさしのばやしチビッコ教室の練習は昭和50(1975)から始まった。市教育委員会の主催で市内の小学校に募集をかけ、現在は約50人の子どもたちが学ぶ。また、第四小学校ではむさしのばやしを学ぶ総合学習も。子どもたちの活動が、次の時代へむさしのばやしを継承していく。

とにかく次の世代にむさしのばやしを伝えていきたい。それが私の使命だと思っています。途絶えてしまったらおしまいですからね。芸能は本当に奥が深い。上手くなるには時間がかか。でも、その奥深さの魅力を知ったらやみつきになりますよ。興味があったら、ぜひ、一度稽古場に遊びに来てほしいですね。

むさしのばやし生誕百五十周年・  
市指定無形民俗文化財四十周年記念式典  
日時 10月23日(日) 午後3時30分～(開場3時)  
会場 スイグホール(武蔵野市境2-14-1)  
申込 当日会場へ  
問い合わせ 教育部生涯学習スポーツ課  
☎0422-60-1902

昭和35年頃に西村さんに教えていただきました。旧田無市は、お囃子の伝統のある地域ですが、近年になって20年ほどその活動が下火になっていた時期がありました。その復興に協力したのが、私たち、むさしのばやし保存会でした。かつて受けた恩を返せたのはうれしかったですね。

山崎さんがお囃子を習い始めた頃はどんな様子でしたか？

私は昭和21(1946)年に、お囃子を学び始めました。11歳のときです。楽器は「組しかありませんでしたから、私たちは竹に藁(わら)を巻いて練習していましたね。練習場は農家の納屋でした。当時は、終戦直後で食べ物が無い時代。お囃子の練習に行くとお芋を食べられました。お芋が食べたくて、お囃子の



練習に通っていたのかもしれないね。戦後になって、むさしのばやしは市の文化財に指定されますね。

昭和46(1971)年に、吉祥寺囃子は「むさしのばやし」として、市無形民俗文化財に指定されました。それ以前からも文化財指定のお話はあつたそうですが、先輩たちは「好きでやってお囃子に市のお墨付きがいついちゃあ面倒だ」とお断りしたそうです。ただ、私と前会長の中野普さん(故人)は、今後の継承を考えたとき、市の文化財としての位置づけも必要と判断し、先輩たちの理解も得て、文化財の指定を受けました。名称も吉祥寺囃子連中から「むさしのばやし保存会」に変わりました。

現在の保存会は31人、子どもが練習

する「むさしのばやしチビッコ教室」には約50人、成人を対象とする「むさしのばやし成人塾」も約10人います。でも、ほかの地域から応援を頼まないとお囃子ができないほど人手がなかった時期もありました。昭和49(1974)年から子どもを対象とした教室を開いて教えていたんですが、子どもたちが大人になるのを待っている余裕はなかった。そこで昭和60(1985)年に初めて成人向けの教室を開いて、成人会員を募集したんです。熱心な方が大勢来てくれて、また盛んになりました。

これから、むさしのばやしとどのように関わっていきたいですか？